

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 22

学校名・団体名	長岡市立脇野町小学校
HPアドレス	http://www.kome100.ne.jp/wakinomachi-es/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	心と心をつなげよう ～陸前高田復興支援～
〈活動・研究の意義、目的〉 陸前高田市への訪問・交流に向けての活動を中核として、復興に取り組む人々の姿や思いにふれるとともに、自分たちにできることや自分の生き方についての考えをもつ。	

○ 活動の内容

<6~9月>

① 自分にできることを考える

これまでの6年生から伝えられた「支援を続けてほしい」という願いと、被災地の人々が花火の打ち上げをととても楽しみにしているという事実を知り、児童は「自分たちに何かできないか?」「今年も花火の打ち上げをしたい!」と考えた。「被災地の人々に笑顔になってもらいたい」という思いから、長岡花火の打ち上げ・陸前高田市立広田小学校との交流・広田町民との交流などを企画した。それらの活動に向けて、児童は花火の打ち上げ資金を集めるための募金活動や花火の観覧場所の整備作業を計画し、準備を進めてきた。

② 人とのつながりを深める

花火の打ち上げに向けた募金活動は、児童だけの力で行うことは困難である。花火師への依頼や、各種のイベントに参加させてもらうために主催者に交渉したり、地域の施設に募金箱を置かせてもらえるようお願いをしたりする中で、子どもの社会性やコミュニケーションの力の向上が見られた。

また、本活動を知り、地域の音楽愛好家からチャリティーライブを開催したいとの申し出があったり、地域イベントを主催する団体から竹灯籠の寄付があったりしたことで、児童は自分たちの活動が多くの人々に支えられ、支援の輪が広がっていることを実感した。他にも、地域の事業所や各種の団体から多額の寄付金をいただいたことなどから、自分たちの活動を必ず成功させたいという意欲と責任感が育まれた。

<10~11月>

③ 達成感・満足感を得る

10月5~7日に陸前高田市訪問活動を行った。これまで準備してきたことを実行し、被災地の人々と実際にかかわることで、児童は多くのことを感じる事ができた。花火の打ち上げや交流活動では、「ありがとう」「涙が出た」という言葉をいただき、児童は大きな達成感や満足感を得ることができた。また、自分たちが花火募金で集めた金額を大きく上回る数の花火を打ち上げてもらったことから、花火師の方への感謝の気持ちと、たくさんの人々の被災地を支援する気持ちを改めて感じる事ができた。

④ 社会の問題と向き合う

被災地の現状を見て、現地の人と話し、自分の肌で感じてきたことで、児童は現実社会の抱える問題に目を向けるようになった。現地では震災遺構の見学や語り部の講話なども行い、「防潮堤や盛り土はできているけれど、あまり家が建っていない」「ニュースには出なくなってきたが、自分が思ったよりも復興していない」など、復興は確実に進んでいるが人々の生活はまだまだ元通りにはなっていないことを児童は実感した。10月に行った地域への活動報告会では、今後も継続した支援の必要性を訴える児童の姿が見られた。

○ 成果

- ・長岡市や陸前高田市の人々の協力を得て活動を進めていくことで、社会参画力や人間関係形成力の伸長を図ることができた。
- ・被災地の人々を意識して活動を重ねたり、自分たちの活動を振り返ったりすることで相手意識や目的意識、客観的に自分を振り返る力などが向上した。
- ・被災地の現状を学び、復興に向けて活動する人々とその思いを知り、自分にできることを考えて進んで行動する主体性や行動力が育まれた。
- ・被害の様子を学ぶことを通して命の大切さを感じるとともに、語り部の方の「災害への備えをしておくべきだ」という言葉から、防災意識の高まりが見られた。
- ・復興に取り組む人々やそれを支える人々とのかかわりを重ね、自分たちにできることを考えたり、今後の自分の生き方について考えたりすることができた。

○ 活動の様子

6～9月 準備活動



8月 三島まつりでの募金活動

9月 竹灯笼の受け取り



10月 震災遺構見学



奇跡の一本松

旧道の駅 高田松原



語り部による講話



10月 現地での交流

全校児童で作成したメッセージを広田小学校へ



三島の竹灯笼で会場をライトアップ



心を込めて歌のプレゼント



10月 活動報告会



陸前高田の空に咲く長岡花火



ご協力いただいた方々に活動を報告